

あ み だ じ 阿 弥 陀 寺 だ よ り



柳家 松太郎 師匠



2014年9月15日 第22号

金剛山 阿弥陀寺

発行人 大谷 義文

〒861-2235 熊本県 上益城郡 益城町 福富 916

TEL (096) 289-0424 FAX (096) 297-9161

E-mail amidaji@s3.kcn-tv.ne.jp

ホームページ [金剛山阿弥陀寺](#) 検索

郵便振替:01710-8-68921 加入者名:阿弥陀寺事務所

7月の法話会は、切り絵師、柳家松太郎師匠にご来寺いただいた。巧みなハサミ裁きと話術に魅了されたひと時だった。

いかなるリクエストにも逸話を添え、感心して聞き入っている間に一枚の紙にいのちが吹き込まれるというすごい技。

「千手観音、お願いしま

す」の声には驚いたが、さすが師匠。「時間があれば千手切り抜くよ、でも待てねえだろう」なんて笑わせながら完成。切り抜いた絵が見事なことは言うまでもないが、切り抜かれた絵が生きていることを知らされた。

法隆寺修復を手がけた、宮大工、故西岡常一氏の言葉を思い出す。

「切るとは、いい面を二つ取ることだ。素人は役に立てる木だけをいいものとするが、片方よければもう片方も自然にいい

面になつていて。切るつことは、いのちを二つに分けてあげることだ」。

師匠の切り絵は、まさにその通りだった。

先日、お寺の前を通り過ぎた車から空き缶が投げられた車に怒っていた。

事故現場では、「人身事故を起こしたのに、相手の救護より罰金と点数の心配だ」と警察官が嘆く。

誰もが、切り絵のように刻み込まれ存在しているはずなのに。

不來方の／お城の草に寝ころびて／空に吸われし十五の心

啄木は空を眺めた。しかも城址の草原で。深く生い茂る夏草が、悠久の歴史を語つたのだろう。空に吸われしは、ここで生きた人の心。みんなみんな、生きているんだ。

みんなみんな、生きているんだ

大谷 義文



佐土原本店

熊本市東区佐土原1-12-1(佐土原バス停前)

電話 096-360-8488

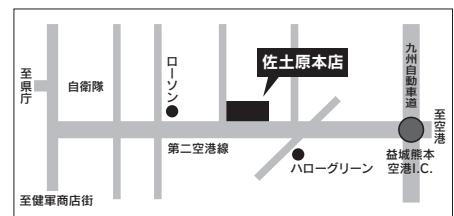
営業時間

昼/11:00~15:30(オーダーストップ15:00)

夜/17:00~21:30(オーダーストップ21:00)

定休日/毎週火曜日(祝日の場合翌日振替)

7・8月、12・1月は不定休



<http://www.kawasen.jp/>

秋 彼岸会 法要

日時・9月21日(日)

午後1時30分から読経

2時から法話(終了後本堂にて懇親会)

講題・お経の不思議『耳なし芳一』を語る

講師・安田 登 師(能樂師・いじども能チヤレンジ講師)

玉川 奈々福 師(浪曲師東京)

※懇親会参加費・1000円

寺子屋「浪曲の秋」

日時・11月3日(月)文化の日

午後2時から5時(終了後本堂にて懇親会)

講師・安田 登 師(能樂師・いじども能チヤレンジ講師)

玉川 奈々福 師(浪曲師東京)

沢村 豊子 師(曲師東京)

—演目は当日のお楽しみ— ※懇親会参加費・1000円

寺子屋「歳暮の会」

日時・12月23日(火)天皇誕生日

午後2時から5時(終了後本堂にて懇親会)

講題・お寺で神様の日本の神様と西洋の神様

講師・安田 登 師(能樂師・いじども能チヤレンジ講師)

※懇親会参加費・1000円

『御修行奮闘記』

釋博真(桝原真人)

柳家松太郎師匠の話。

年長者からお酒をいただきとき、「おつとつ」とと盃を上げて断るのは駄目。

「もういいです、いいです」と引いて遠慮するの

が相手とうまく飲める極

意だそだ。

私は、お参り先でお茶、お菓子をいただく機会が多い。急いでいる時はかんたんに断つて失礼している。好きなお酒もそういう。私の態度は不遜であった。師匠の話と切り絵は、まことに考えさせられた話であった。



○もちつき

12月30日(火)

10時からもちつきをします。

ご参加の方は、連絡おこないます。

※お寺の行事、どなたでもご自由に参加できます。

● 猫伏石の声

○御正忌報恩講

1月11日(日)

法話 大谷義文
落語と切り絵

柳家松太郎師

※詳細は次号でお知らせいたします。

ハタオ葬儀社 水前寺斎場

熊本市中央区国府1丁目12-3
TEL.096-364-3220(代)

豊住葬祭 豊住斎場
熊本市中央区河原町23
TEL.096-324-4848(代)

阿弥陀寺だより